

— 用語集(50音順) —

【ASP】

Application Service Provider の略で、アプリケーションを提供するサービスプロバイダーのことです。顧客はインターネット経由でアプリケーションを利用し、サービス提供者がハードウェアやソフトウェアの運用・管理を行います。

【EUC】

End User Computing の略で、エンドユーザーがシステムを利用する上で、ユーザーが、抽出方法や条件設定、集計方法などを指定してシステムからデータを抽出する機能を指します。

このような機能を搭載したシステムは、システム内のデータベースから、自らが望んだデータだけを出力することができるため、非常に使い勝手がよいです。

【ICT投資効果】

ICTとは Information and Communication Technology の略で情報通信技術と訳され、コンピュータを使った情報処理や通信技術、サービスなどの総称です。ICT投資効果とは、ICTの投資がもたらす効果や成果を評価する指標です。具体的な効果としては、業務効率の向上や市民サービスの充実、コスト削減などが挙げられます。

【LGWAN】

Local Government Wide Area Network の略で、地方自治体と政府が専用で使用する広域ネットワークのことです。LGWAN 上でシステムを提供する事業者もネットワークに接続しており、それらのシステムは LGWAN-ASP と呼ばれています。

LGWANでは、専用のメールアドレスを使って行政間でメールの送受信が行うことができます。

本市の場合は、”abk_[部署名のアルファベット]@city.abiko.lg.jp”となっており、末尾が”lg.jp”になっているのがインターネット用のメールアドレスと異なる部分です。

【OracleDB】

Oracle Database の略で、オラクル社が提供するリレーショナルデータベース管理システムのことです。オラクルが開発したデータベース技術を使用して、データの管理や処理を行うことができます。非常に優秀なデータベースソフトですが、非常に高価でもあります。

【RFI】

Request for Information の略で、情報提供依頼と訳されます。

システム調達の前段階で、市場調査や情報収集を目的としています。

本市が求める具体的な機能を記載し、その機能への対応度を調べたり、構築期間、概

算費用などを調べることで、どのような機能のシステムが、どれくらいの期間で、どれくらいの費用で導入できるのかを把握することができます。

求める機能を機能要件一覧として整理したうえでRFIを行えば、その資料はプロポーザルやRFPに流用することができ、とても効率的です。

RFIを行うことで、予算要求の説明やプロポーザルの資料作成の事務の難易度が格段に下がります。

【RFP】

Request for Proposal の略で、提案依頼を行うことです。

本市では、プロポーザルと同じ手続きを行い、導入経費をリースにて調達する時に行う方法です。

プロポーザルは、提案事業者以外とは契約できませんが、RFP では、製品と提供事業者を選定するため、選定後にこれらを指定し、導入経費をリース入札することができます。

【SaaS】

Software as a Service の略で、インターネットを通じてソフトウェアを提供するクラウドサービスのことです。ユーザーはソフトウェアを自分のコンピュータにインストールする必要がなく、ウェブブラウザを使って必要な機能を利用できます。

主な特徴は次のとおりです。

- ①サブスクリプション形式で定期的な料金を支払って利用する形が一般的です。
- ②ソフトウェアとデータはすべてクラウド上に保存され、インターネット接続さえあればどこからでもアクセス可能です。
- ③最新バージョンやセキュリティパッチが自動的に適用されるため、ユーザーはメンテナンスを気にする必要がありません。

代表的な SaaS の例は、Microsoft 365 や Google Workspace などです。

【WBS】

Work Breakdown Structure の略で、プロジェクトの作業を全て洗い出し、階層的に分類し、表形式にまとめて管理する方法です。作業項目、担当者、期日などを明確にするために使用されます。

本来の WBS は作業項目と役割分担のみの表で、スケジュールまで含めたものはガントチャートと呼ばれます。実際の WBS はスケジュールまで含まれていることが多いため、現在では、WBS とガントチャートは同じものを指します。

【SLA】

Service Level Agreement の略で、サービス提供者と利用者間で合意されたサービスレベルを文書化した契約文書の一部です。

提供されるサービス品質や運用サポートのレベルなどを明確にし、双方で合意します。達成できない時は、ペナルティを与えることができ、また、達成できた時はインセンティブ

を与えることができます。これらをポイント化し集計することで、ペナルティについて清算することなどができます。なおインセンティブに対する追加費用の支払いはありません。

【UI】

User Interface の略で、ユーザーが操作するためのインターフェース(画面)のことです。ユーザーの使い勝手の向上や使いやすさを重視してデザインされます。

【アプライアンス】

専用のハードウェアやソフトウェアを組み込んで提供されるシステムやデバイスのことです。アプライアンスは通常、特定の機能や目的に特化しており、汎用的に使うことはできませんが、特定の用途を目的にしたときは導入や運用が容易です。

セキュリティの認証装置や IP-PBX (IP 電話交換機)などはアプライアンスであることが多いです。

【インシデント】

障害や問題の発生や報告のことです。システムやサービスの正常な動作が妨げられた場合や、利用者からの報告があった場合にインシデントとして扱われ、対応が行われます。

一般的には情報漏洩やサイバー攻撃などがこれにあたります。

【インセンティブ】

本来の意味は、動機付けや奨励のために提供される報酬や手当のことです。

SLA のペナルティポイントを相殺することができます。

情報システムの提供において、市のメリットとなる提案・作業をした場合や全く障害が発生せず安定稼働をした時などにインセンティブポイントを付与します。

【カスタマイズ】

既存のシステムやソフトウェアを、特定の要件やニーズに合わせて変更や改良することです。カスタマイズによって、システムやソフトウェアがより利用者の要求に適した形になりますが、システムのバージョンアップの邪魔になったり、カスタマイズに起因する障害が発生する可能性があります。また、コストの増加の一因にもなります。

【仮想基盤】

物理的なハードウェア上に複数の仮想的な環境を構築する機器のことです。仮想化技術を使用して、複数の仮想サーバ、仮想ストレージ、仮想ネットワークを構築することで、効率的なリソースの使用や柔軟性の向上を図ることができます。

【ガントチャート】

本来 WBS とガントチャートは異なるものですが、現在では WBS と同じ意味で使われる言葉です。WBS に期日を入れたものがガントチャートです。別の言い方をすると、表の

縦の項目が洗い出された作業と役割で WBS、表の横の期日の棒グラフを含めるとガントチャートです。

【サブスクリプション】

定期的な支払いを行うことで、特定のサービスやコンテンツを利用することができる契約のことで、月額料金や年間契約などの形態で提供され、サービスの利用範囲が定められています。提供期間に最低期間があるものや、1年毎に更新するものなど様々な形態があります。

【サマリー】

要点や概要をまとめたレポートのことで、表やグラフを用いて見やすくしたものが使われることが多いです。一目見て概要がわかるように整理する必要があります。

【スクラッチ】

何もない状態からシステムを手作りで開発することを指します。発注者の要望が全て満たされるシステム開発が可能です。しかし、定期的なバージョンアップが無い場合、機能強化も独自に開発していく必要があります。

比較的小規模なシステムで、要件を満たせるシステムが存在しない時に選択される手法です。

本市においては、高齢者台帳システム、児童相談システム、給与明細システムがスクラッチで開発・導入されたシステムです。

【ストレージ】

データや情報を保存するためのディスクや装置のことです。ハードディスクや SSD を複数枚組み合わせることで大容量の領域を作ることが可能です。

オンプレミスの他、クラウドストレージなどもあり、データの保管やバックアップなどに使用されます。

【責任分界点】

業務やプロジェクトにおいて、異なる組織の責任を明確にするための境界のことです。責任分界点を定めることで、各組織や役割の範囲や責任を明確にすることができます。

分かりやすい例だと、「システムの不具合はベンダーの責任で対応し、パソコンの不具合は市の責任で対応する。」という分担です。

システム調達・運用において、責任分界点が不明確だと障害が発生した時など、だれがどの場所の原因調査をするか決まらず、対応が遅れます。また原因が判明しても責任の所在が不明確になり、防止対策にも影響がでてきます。

【属人化】

個人に依存しすぎている状態を指します。特定の個人が特定の業務や知識を持ってお

り、その個人が不在の場合に問題が発生する状況です。業務の効率化やリスクの軽減のために、業務や知識の共有化、習熟度向上のための教育、ノウハウの引継ぎが重要です。

【ダウンタイム】

システムやサービスが正常に稼働していない状態のことです。障害発生時にサブシステムに切り替わるまでの停止時間、新旧のシステムを切り替えるための停止時間、機器を更新する際の停止時間などを指します。

ダウンタイムを最小化するためには、予防策やバックアップシステムの導入が重要で、システムや機器の更新の際は、綿密な計画が必要になります。

【地域情報プラットフォーム(地プラ)】

地方公共団体が、様々なシステム間でデータをやり取り(データ連携)するための標準仕様のことです。この標準仕様に適合するシステムは、相互の連携やシステムの刷新が効率的に行えるため、自治体の調達自由度が上がったり、業務の効率化、マルチベンダー化が期待されます。

総務省の外郭団体である、一般財団法人 全国地域情報化推進協会(APPLIC)が管理しています。

【調達プロセス】

システムやサービスを調達するための一連の手続きや流れのことです。市場調査、仕様の決定、入札や提案の募集、契約締結などのプロセスが含まれます。効率的かつ公正な調達を行うために、プロセスの明確化とルールの遵守が必要です

【陳腐化】

技術やシステムが古くなり、時代に取り残されている状態を指します。陳腐化した技術やシステムは、機能や効率性が低下し、新たなニーズや要件に対応できなくなります。

このため、定期的な更新やバージョンアップが必要です。

【パッケージ】

複数の機能や機能群をまとめて提供するソフトウェアやシステムのことです。一般的には、特定の目的や業務に特化した機能を持ち、導入や利用が容易な形で提供されます。パッケージを導入することで、開発やカスタマイズにかかる時間やコストを効率化することができます。

【バッチ処理】

一定のまとまった作業や処理を一括で実行する方法です。バッチ処理では、事前に指定した手順や条件に基づいて、自動的に一連の作業や処理を順次実行します。一度に多くのデータを処理する場合や、夜間など定期的な処理を実行する際に使用されます。

【ファイルレイアウト】

データや情報をファイルの形式で保存する際のレイアウトやフォーマットのことで、ファイルレイアウトには、データの項目やフィールドの配置、データ型や長さ、区切り文字などが定義されます。ファイルの読み込みや書き込みにおいて、ファイルレイアウトが一致している必要があります。

【プロトコル】

データの通信や情報のやり取りを行うための規約や手順のことです。ネットワークやインターネットでのデータ通信において、異なる機器やシステム間でデータを受け渡すために使用されます。代表的なプロトコルとしては TCP/IP や HTTP などがあります。

【ベンダー】

システムやサービスを提供する事業者のことを指します。

ある業務を行うためのシステムやソフトウェアが一者の独占的な状態であったり、システム刷新の際のデータ移行が行えず、一者と契約し続けなければならない状態をベンダーロックインといいます。

ベンダーを選定する時は、選択肢が多くあることが理想です。

【リース料率】

物件金額に対して毎月支払うリース料の割合のことで、 $[\text{リース料率} = \text{月額リース料} \div \text{物件金額}]$ となっており、リース期間が短いほどリース料率と月々の支払額が高くなります。

例えば、5年(60カ月)の場合、リース料率を1.82%とします。

1,000万円の物件の場合、月額リース料は、182,000円となり5年支払総額は、1,092万円となります。

元金1,000万円を超える92万円分がリースの利息、会社の経費や利益などになります。